

県立大、台南芸術大生出展

工芸作品で“対話”を

倉敷物語館

「素材や技法の異なる者にさまざまな対話が5時（最終日は午後4時）まで。入場無料。作品を通じ、鑑賞する。午前10時～午後5時（岸研一）」

国際交流協定を結阿知で開かれている。コロナウィルスの感染
び、デザイン分野で相 両大の教員や卒業生ら 拡大のためオンライン
互に教育・研究を進め が趣向を凝らした工芸 ンによる授業を実施
る総社市窪木の県立大 作品を並べ、入場者の している。交流展は1
と、台湾の国立台南芸 目を楽しませている。 月、台湾で先行開催し
術大による初の交流展 19日まで。

が、倉敷市美観地区に 両大は2019年12 「現代工芸のダイア
ある倉敷物語館（同市 月に協定を締結。新型 ローク」(ダイアロー
グは対話の意)と題し、
計27人が1〜3点ずつ
出展している。ツバキ
の葉や枝に藍色の絹糸
を巻き付けた作品、無
数の粒を表現した抽象
的なオブジェなどが展
示され、入場者は作者
の意図を想像しながら
鑑賞。茶室には茶わん
をテーマにした造形物
が並び、繻や綿糸を縫
い合わせたものなどが
目を引いていた。

趣向を凝らした作品が並び交流展

の難波久美子教授は
県立大デザイン学部

